

新たなまちの礎を築いていくために

「他日五州第一の都」 ～ 世界随一の都に ～

開拓使の判官として赴任した島義勇しま よしたけが、現在の円山近くの丘から石狩川や肥沃な大平野を見て、詠んだ漢詩とされています。

この漢詩が詠まれてから150年以上が経過し、まさに札幌市は人口197万人を擁する大都市へと成長いたしました。一方、都市の成熟化が進み、これまで増加が続いてきた人口は減少局面を迎え、人口構造にも大きな変化が生じることが予想されています。

また、昭和47年(1972年)の第11回冬季オリンピック競技大会の開催を契機として、地下鉄や区役所などの公共施設が集中的に整備されたほか、都心を中心に民間ビルなどが多く整備されましたが、約50年が経過した現在では、当時形成した都市基盤の更新時期を迎えており、都市のリニューアルを進めていく必要も生じています。

先人たちが築き上げてきたこの魅力的なまちを受け継ぎ、新たなまちの礎を築いていくため、この度、今後10年のまちづくりの基本的な指針として、「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」を策定しました。

このビジョンでは、今後のまちづくりを進めるに当たり、市民、企業、行政などの多様な主体が共有する札幌市のまちの姿を、「目指すべき都市像」として掲げるとともに、この都市像の実現に向けて、まちづくりを進めていく上での3つの重要概念(「まちづくりの重要概念」)を定めました。

地域課題が複雑化・高度化する中、行政単独では解決できない地域課題が増えていることから、行政が市民・企業・団体の方などと協働していく必要があります。「目指すべき都市像」や「まちづくりの重要概念」など、このビジョンに込めたまちへの思いを、様々な方々と共有し、協働を進め、まちづくりを加速させていきたいと思っています。そして、豊かな暮らしが実現でき、それを支える人材・モノ・投資・情報が国内外から集まる、魅力的な「さっぽろのまち」を将来にわたって持続させていきます。

最後に、計画の策定に当たり、ご尽力を賜りました審議会委員をはじめ、様々な形で関わっていただいた市民の皆様にご心からお礼を申し上げます。

令和5年(2023年)10月

札幌市長 秋元克広

